

| 歴 史 I (History I) | 2年・通年・2単位・必修 2MESIC 担当 大矢 良哲 | |
|---|---------------------------------|--|
| 〔準学士課程（本科 1-5 年）学習教育目標〕 (1) | | |
| <p>〔講義の目的〕</p> <p>歴史の学習の目的は、過去に学ぶ、つまり今と未来への道標を探ることにある。日本史の場合、その目的は、過去の文化的伝統の中から、われわれが本当に誇り得るもの、明日の日本の発展、さらに人類全体の向上のために貢献し得るもの、反対に、日本民族の進歩を妨げてきたもの、今後一日も早く清算されなければならないものを的確に見分け、それぞれにふさわしい正当な位置づけを行うところにある。歴史では基本的な事実を正しく理解し、歴史的なものの見方を育てていきたい。</p> | | |
| <p>〔講義の概要〕</p> <p>講義は、授業時間数の関係で原始から近世までの通史と近現代の一部を取り上げる。近現代は“アジアのなかの日本”をテーマに平和学習を行い、夏休みにレポートを課す。</p> | | |
| <p>〔履修上の留意点〕</p> <p>歴史学という学問は、過去に向かってわれわれの探究心を無限に伸ばしていくものだから、知的遊戯としての楽しさを含んでいる。しかしそれは過去を過去としてのみ後ろ向きに見るものではない。むしろ前向きの実践的な性格の強い学問であり、人々の生き方そのものに直結している。歴史は暗記ものだというような考え方は、この点が理解されてないことによる。歴史学は、経済学・法学・政治学などとは違って、社会諸現象の総体を有機的に捉え、これを時間の経過において問題にするところに特色がある。テストの際に暗記さえすればよいという考えは捨てていただきたい。むしろ歴史の流れを理解するほうが大切で、そのために多少の歴史的用語の学習が必要となるのである。</p> | | |
| <p>〔到達目標〕</p> <p>学生諸君が、日本の歴史を、日本をとりまく世界の歴史とのつながりのもとに科学的に理解しようとする。そのためには、まず日本史の正確な理解が要求される。</p> | | |
| <p>〔評価方法〕 以下の3つの項目で成績評価を行う。</p> <p>定期試験（60%）…前期中間・後期中間・学年末に実施。</p> <p>レポート（25%）…夏休みには平和学習の課題を出す。前期末においては、このレポートが成績評価の主な資料となる。</p> <p>残り(15%) …出席状況・受講態度・講義ノートの提出等によって評価する。</p> <p>また、秋には文化財の自由研究の課題（奈良国立博物館の活用）を出し、決められた期間内にレポートのかたちで提出した者には学年末成績に少し加点する。</p> | | |
| <p>〔教科書〕</p> <p>教科書としては簡潔に歴史の筋道を記述した『もういちど読む 山川日本史』（山川出版社）を用い、『山川 ビジュアル版 日本史図録』（山川出版社）によって理解を深める。</p> <p>〔補助教材〕</p> <p>補助教材としてはビデオ教材や配布プリントなどを使用する。</p> | | |
| <p>〔関連科目・学習指針〕</p> <p>本教科は地理・歴史Ⅱ（世界史）・政治経済・法学・経済学等の科目に関連する。</p> | | |

講義項目・内容

| 週数 | 講義項目 | 講義内容 | 自己評価* |
|--------|-------------------------|---------------------------------|-------|
| 第 1 週 | 〔原始・古代〕 歴史とは、文化のはじまり | 日本歴史をいかに学ぶか、先史時代から縄文文化への発展とその特徴 | |
| 第 2 週 | 農耕社会の誕生 | (ビデオ教材使用) 縄文社会から弥生社会への移行 | |
| 第 3 週 | 小国の時代と古墳 | 邪馬台国と大和王権の誕生 | |
| 第 4 週 | 大和王権と古墳文化 | 大和王権の発展と古墳文化 | |
| 第 5 週 | 飛鳥の宮廷 | 聖徳太子と蘇我氏の政治 | |
| 第 6 週 | 大化の改新 | 中大兄皇子と改新政治 | |
| 第 7 週 | 律令国家 | 律令国家の草創とその繁栄 | |
| 第 8 週 | 飛鳥・白鳳の文化 | 大陸文化と日本人の精神文化 | |
| 第 9 週 | 平城京の政治 | 奈良時代の国家の発展 | |
| 第 10 週 | 〔近代〕 大日本帝国の戦争 | 近代日本とアジア | |
| 第 11 週 | 戦時下の国民生活 | 大東亜共栄圏の実態、国民生活の崩壊 (ビデオ教材使用) | |
| 第 12 週 | 敗戦と戦後改革 | 連合国の動向と原爆投下、沖縄戦と基地 (ビデオ教材使用) | |
| 第 13 週 | 〔古代〕 天平文化 | 国家仏教と天平芸術 | |
| 第 14 週 | 平安遷都と貴族政治 | 律令政治再建の気運と藤原氏 | |
| 第 15 週 | 弘仁・貞観文化 | 唐風文化の盛行と密教 | |
| | | | |
| 第 16 週 | 摂関政治 | 藤原時代の政治 | |
| 第 17 週 | 国風文化 | 浄土思想と国風文化 | |
| 第 18 週 | 〔中世〕 荘園と武士団 | 荘園の発達と武士の台頭 | |
| 第 19 週 | 院政と平氏政権 | 院政の展開と武士社会の形成 | |
| 第 20 週 | 鎌倉幕府の誕生 | 武家支配の浸透 | |
| 第 21 週 | 鎌倉文化 | 新仏教の発展と文化の新傾向 | |
| 第 22 週 | 蒙古襲来と南北朝動乱 | 幕府の衰退と南北朝の分立 | |
| 第 23 週 | 室町幕府と勘合貿易 | 室町幕府の展開と外交政策 | |
| 第 24 週 | 下剋上の社会と戦国大名 | 農民の成長と下剋上、戦国大名の分国支配 | |
| 第 25 週 | 北山文化・東山文化 | 東山芸術と民衆の文化 | |
| 第 26 週 | 〔近世〕 ヨーロッパ人の来航と織豊政権 | 信長・秀吉の天下統一 | |
| 第 27 週 | 桃山文化と幕藩体制の確立 | 桃山文化と江戸幕府の成立 | |
| 第 28 週 | 鎖国への歩み | 「鎖国」のなかの異文化接触 | |
| 第 29 週 | 幕藩体制の展開と文化 | 幕政の安定と元禄・化政の文化 | |
| 第 30 週 | まとめ | | |

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)